

面師 高倉左近

7月を迎え、夏本番。市内各地でお囃子の音が耳に届く季節になりました。そんなお囃子に花を添える「面」を、三代にわたって作り続けてきた「面師」が市内に居ることをご存知ですか。本特集では、面師である三代目高倉左近に焦点を当て、職人・高倉左近が語った言葉から、地域の行事や風習を支えてきた想いや、受け継いでいく手がかりを探ります。

■ 難波田城資料館 ☎049-253-4664



水子に工房を構えて三代

市内でお囃子が盛んな水子地区に工房を構える面師・高倉左近。面師とは、神楽やお囃子に使われる木彫り面、芝居や土産物などに使われる張り子面を作る職人で、「面打ち」や「めんこや」とも呼ばれ、現在は三代目が面製作を引き継いでいます。神楽やお囃子が身近な神社の祭礼として欠かせなかった時代、面師は村に1人はいいたそうですが、現在その数は減り、高倉家のような専門の面師は県内で唯一と言われています。その面は市内だけでなく、県を越えて全国各地で広く親しまれ、テレビドラマの小道具などにも使われています。

自分の作った面に納得がなくなってしまったら、職人としてはもう終わりなんじゃないかな

たといいます。コンクリート製の面の「型」や五月人形に做った塗りは高倉左近ならではの。二代目も三代目も基本的な部分はそれを引き継いできました。

現状に疑問を持つことで生まれる新しい技

「面師」といってどこか崇高な伝



三代目 高倉 左近 氏

本名は高野亨さん。工業高校卒業後、二代目高倉左近(本名：高野貞吉さん)の下で面製作を始める。二代目が引退した現在は、妻と2人で面製作に打ち込む。趣味はバイク。

な」という言葉。三代目は引き継いだ製作法や素材を検証し、より作りやすく生き生きとした面を追求してきました。

統技能を引き継いできたと思われがちですが、基本的にはほかの職種と同じです。テレビの取材などでは伝統技能継承者らしい振る舞いを演出されることがありますが、それは本来の姿ではありませんね。社会人として悩んだり学んだりの繰り返し。世間一般の方々とは何ら変わりませんよ」と三代目は言います。同時に語られたのが「自分の作った面に納得がなくなってしまったら、もう終わりなんじゃないか

例えば、面に桐のおがくずと糊を合わせた「パテ」を盛って彫りを深め、さらに表情豊かにしました。また、塗料の使い方を変え、質の向上や工程の効率化を図ってきました。「なぜその塗料を使うのか、なぜその製作法なのか、わからなまま進めたくない。現状に疑問を持って新しいものは生まれます」と三代目は言います。どのような物事でも、引き継ぐ際に心に留めておきたい考え方は、



本特集は、難波田城資料館作成の冊子「里神楽と面師」(平成30年)を参考資料として作成しました。興味のある方はお問い合わせください。(販売価格/1部500円) 難波田城資料館 ☎049-253-4664



熟練面師の挑戦 木彫り面再び

三代目は、これまで和紙で作る張り子面製作と木彫り面の修理に携わり、木彫り面は作ってきませんでした。かつて挑戦し、「自分には向かない」と触れてこなかった木彫り面製作ですが、^{よわい}年齢55にして改めて再開の決意をしました。まだ注文を受ける段階ではありませんが、「今まで

何か物事を始めるとき、大切なのは

年齢ではなく「気持ち」なんだろう

自分が言い訳をして木彫りから離れていたように思いますが、もうそれは止めよう。何かを始めるときに大切なのは年齢ではなく気持ちなのだ

先代の姿を見て 染み付いたもの

三代目は工業高校卒業後、面師への道を歩み始めました。元々は電気関係の仕事をしていました



歴代高倉左近作の面を多く所有する水子城之下組囃子連

引き継がれてきたお面に宿る息遣い

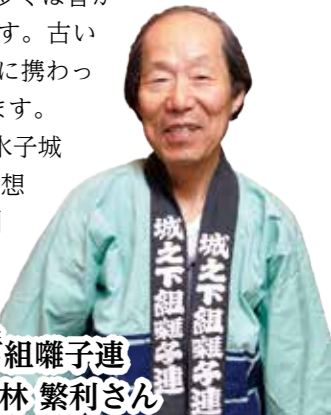
お面は、数あるお囃子の道具の中でも特に重要な役割を果たします。お囃子に登場する役柄を表現できるのはお面だけです。お面がないとお囃子は成り立ちません。

また、お面は演者の気持ちを引き立たせます。本番前は緊張しますが、お面をつけると切り替わり、気持ちが高ぶってきます。

水子城之下組囃子連が所有するお面の多くは高倉さんのお面です。最近譲っていたものもありますが、多くは昔から引き継がれてきたものです。古いお面からは、これまでお囃子に携わってきた方々の息遣いを感じます。

明治時代から続く私たち水子城之下組囃子連。その歴史と想いをお面とともに次代に引き継いでいきたいと思っています。

水子城之下組囃子連
代表幹事 林 繁利さん



う言葉から何かしらのメッセージを受け取ったのだと思います」と

が、一転して面師になることを決めたきっかけは、工房によく遊びに来ていた叔父が亡くなる前に三代目に伝えた「後は頼むな」との一言。「決して後を継げという意味の言葉ではなく、先代からも跡継ぎについて話があったことはありませんでした。ただ、叔父も自営業を営んでおり、当時の私なりに「家に仕事があるということ」に感じるところがあったのかも知れませんね。「後を頼むな」とい

三代目は思い出を語ってくれました。以降、面師の道に入った三代目でしたが、先代から順序立てて面の作り方を教わったことはありませんでした。ただ、三代目が木彫り面に再挑戦するとき思い出したのは、やはり先代が木彫り面を彫っている姿。三代目は「木彫り面を始めてみると、先代はこんなことしてたよなあ、と当時を思

誰が欠けても輝かない「地域の色」

い出すことがありません。なんだかんだ父の姿を見て染み付いたものがあるんだと思えます」と感慨深く話してくれました。

「面に注目してくれるのはうれしいが、面はあくまで行事の下支えであり、引き立て役。面師はそれを作るだけ。面は付けて踊って初めてその役を果たすもの。地域の行事や風習は、私と同じく道具

を作る人、衣装を作る人、舞台準備をする人、太鼓を叩く人など、多くの方が関わって初めて成立している、みんなに大切な役割があり、誰が欠けてもできません」と語る三代目。存続が危ぶまれている地域の囃子などについて考

みんなに大切な役割がある

えを伺うと「私自身もそうでしたが、引き継ぐにあたって、間口を広げるなど、現代に合った形に変えていく必要があるのかもしれない。この地域で祀ってきた『神様』の意味を理解し、興味を示す

築いた「地域の色」があります。そして、その色がふるさとの思い出として人々の心を彩るのです。7月を迎え、夏本番。このまちだけの色と思いを探しに、地域の行事やお囃子に出かけてみませんか。

方は大人にも子どもにも多いはずです」と語りました。近年、地域のひとと人とのつながりが薄れ、受け継いでいくことが難しくなってきた地域の行事や風習。しかし、そこには、歴代の高倉左近のように、行事を彩る要素それぞれに誇りをもって支えてきた方々が

川越でも名高い「左近のお面」

川越でお囃子に関わる者の間では、高倉さんのお面はとて名高く、川越まつりでもかなり多くの数が使われ、「左近のお面」と呼ばれ、親しまれています。高倉さんのお面はほかのお面とは迫力や神々しさが違います。私も約50年前に地域の囃子連である「榎会囃子連」を立ち上げた当時から高倉さんのお面を使い続けています。

当店でも高倉さんの工房へ出向き、取り扱わせてほしいとお願いに伺った経緯があります。当店で扱っていることを口コミで知り、かなり遠方からもお越しになることも多いです。高倉さんのお面は富士見市だけでなく、地域一体の宝と言えほどのものだと思います。

民芸品つちかね(川越市)
店主 玉金 明彦さん



三代目高倉左近作の面は、インタビューにご協力いただいた「民芸品つちかね」でも取り扱っています。

民芸品つちかね(川越市新富町1-5-4) ☎049-222-0836



三代目高倉左近作の面は、富士見市まちづくり寄附制度(ふるさと納税)の返礼品にもなっています。

政策企画課 ☎@234



てんのう
【天王様】

とき／7月15日に近い土・日曜

水子の石井地区、城之下地区、上組地区で行われる祭事。牛頭天王を祭神とし、人々を疫病から守ることを祈願する。当日は地区内を神輿や囃子が練り歩く。



【おすわさま】

とき／8月28日(水)

諏訪神社の例大祭。諏訪神社周辺に多くの露店が連なる。夕方から境内でお囃子や神楽、鶴馬諏訪神社獅子舞が奉納される。



【みずほ台祭り】

とき／8月31日(土)

みずほ台駅西口周辺で開催。露店が多く並び、ステージが盛り上がる。開催日はロータリーと大通りが歩行者天国になる。



げどう
【外道】 二代目作・木彫り

鬼の形相をした、ちょっとおかしな乱暴者を表す。お囃子では、ユニークな動きで演じられる。

【ひょっとこ】

三代目作・張り子

漢字で「火男」と書き、従者が囲炉裏やかまどの火を吹く表情になぞらえた名称とされる。神楽やお囃子では、主役をからかう「もどき」の面に使われる。



【おかめ】

三代目作・張り子

お多福とも呼ばれる滑稽な顔だちのおかめは、里神楽やお囃子で「もどき」のひょっとこと対になって登場することが多い。



てんこ
【天狐】

初代作・木彫り

天狐は神の使い。神楽の演目「種蒔」では、稲荷神が鎌で耕し、天狐が稲の種を蒔く。お囃子ではおかめ・ひょっとこに並ぶ欠かせない役柄。



はんじや
【般若】

三代目作・張り子

元は能面の一つで、妬みや苦しみをたたえた鬼女を表す。神楽では悪魔除けの舞いなどで使われる。角は桐材で別に作り、接合する。



【狐】

初代作・木彫り

3月の最初の午の日に稲荷社にお参りする初午行事の「舞い込み」で子どもたちが使用した。



てんぐ
【天狗】 三代目作・張り子

日本の民間信仰上の神や妖怪ともいわれる怪物。般若の角と同じく、高鼻は桐材で作られている。



高倉左近の面と
面が見られる市内の行事

歴代高倉左近が製作してきた面はおよそ40種類。また、催し物が盛んになるこれからの季節は、面が見られる予定の行事が多数開催されます。ここではそれらの一部を紹介いたします。

【勝瀬de縁日】

とき／9月7日(土)

ふじ野交流センター周辺で開催予定。勝瀬・ふじ野地域の子どものふるさとづくりや住民交流のための縁日で、昔遊びや模擬店、イベントが催される。



あか
【夢灯り大市】

とき／10月5日(土)

鶴瀬駅東口の駅前通りを中心に開催。商店会の模擬店が多く並び、近隣幼稚園の園児の皆さんが作った灯籠が祭りを彩る。

【'19富士見ふるさと祭り】

とき／10月26日(土)

市役所周辺で行われる富士見市最大のお祭り。模擬店やイベント、特産品の販売などがあるほか、市内のお囃子団体による演舞が披露される。



元来、お囃子や神楽は、家内安全、五穀豊穡、悪疫退散を祈って神社の祭礼に奉納されてきました。現在、お囃子は「水子城之下組囃子連」、「水子上組囃子連」、「水子石井囃子保存会」、「中水子囃子保存会」、「勝瀬囃子連」の5団体が、里神楽は「齊藤社中(齊藤家)」が市内各地で活動しています。※上記写真中や演舞に使用される面は、高倉左近の面でない場合もあります。

今回紹介した高倉左近の面の一部は、難波田城公園の常設展示室と穀蔵展示室に展示しています。
 園 難波田城資料館 ☎049-253-4664

面の一部は高倉左近の工房でも購入することができます。
 園 高倉左近 ☎049-251-0880